

宮川香山

[初代：1843-1916年、2代：1859-1940年、3代：1881-1945年]



本名：虎之助

初代・宮川香山は1843年に京都で陶器業を営む宮川長造の子として生まれ、1860年に家業を継承しました。1871年に横浜・太田町に移窯し、眞葛焼と命名し輸出用陶磁器の生産を始めました。豪華な薩摩錦手が海外で人気を博す中、香山は立体的な装飾技法である「高浮彫」を大成させます。

その後、1876年のフィラデルフィア万博での受賞を契機に「眞葛焼・宮川香山」が世界へ知れ渡ります。また後期には「釉下彩」の作品を制作し、こちらも国内外で高く評価されました。こうした活躍から1896年には陶芸界では2人目となる帝室技芸員に任命されました。

現在でも海外の大英博物館、ヴィクトリア&アルバート博物館、ギメ東洋美術館等に所蔵されており、世界中にコレクターが存在しています。

< 海外万博の主な受賞歴 >

1876年 フィラデルフィア万博【銅牌】

1879年 シドニー万博【特絶一等賞】

1880年 メルボルン万博【一等賞状】

1883年 アムステルダム万博【銀牌】

1893年 シカゴ万博【金牌】

1900年 パリ万博【大賞】

1904年 セントルイス万博【最高賞】

1905年 リエージュ万博【大賞】

ポートランド博覧会【金賞】

